

札幌市の市制100年を迎えて



札幌市長 秋元 克広

1. はじめに

札幌市は令和4年、市制施行から100年、政令指定都市になってから50年という大きな節目を迎えました。一方で、令和3年には初めて人口減少を記録し、市として大きな転換期を迎えることとなります。様々な社会情勢等の変化に柔軟に対応し、先人たちが築いてきた魅力的な札幌のまちを次世代に繋ぐ使命を改めて実感しているところです。

持続可能な札幌のまちづくりにおいて、その土台となる基幹インフラである上下水道については、適時適切な整備・管理が不可欠であることはもちろん、大規模な地震や局所的な豪雨災害への対応力の強化、脱炭素社会の実現に向けたさらなる環境施策の取組の推進など、様々な観点を踏まえ、事業を進めていく必要があります。



初夏の大通公園と、市木のライラック

2. 札幌市の上下水道事業

(1) 事業の沿革

札幌の水道事業は昭和12年、現在もリニューアルして使い続けている藻岩浄水場により、9万2千人に対し通水開始したのが始まりです。その後の高度経済成長に伴う急激な発展を経て、水道も段階的に拡張を進め、現在では、197万人の利用者に対し、5箇所の浄水場、約6,000kmの配水管により、年間でおよそ2億立法メートルの水をお届けしています。

一方、下水道事業は、大正15年の事業着手後、冬季札幌オリンピックの開催を契機に集中的に整備が進められました。令和4年度時点では、約8,300kmの下水

道管、10箇所の水再生プラザ（下水処理場）、16箇所のポンプ場等を有し、現在、水道及び下水道の普及率はほぼ100%となり、安全で快適な市民生活と社会経済活動を支えています。

(2) 着実な事業の推進

水道では平成27年に、10年間の事業計画を定めた「札幌水道ビジョン」を策定しました。本ビジョンに基づき、利用者サービス水準とコストのバランスに留意しながら、必要な事業を着実に進めております。

具体的には、水源に流入するヒ素・ホウ素等を含む自然湧水等を抜本的に除去する「豊平川水道水源水質保全事業」や、水源の分散化を目指した「石狩西部広域水道企業団」への参画などの取組を進めています。また、本市給水の8割を担う白川浄水場の大規模改修や、老朽化が進む基幹送水管の更新、配水管に対する延命化・事業平準化を考慮した計画的な更新も進めています。加えて、各施設の耐震化や、大規模な地震等に備えた緊急遮断弁の設置といった耐災害性の強化、職員育成や国際貢献、未利用エネルギーを活用した水力発電の設置といった環境施策等も併せて進めているところです。

札幌水道ビジョンの計画期間は令和6年度までとなっており、終盤を迎えております。給水収益の減少や物価高騰等による事業費の増など、非常に厳しい経営環境となっておりますが、必要な取組を計画通り実行できるよう、引き続き適切な事業執行を進めてまいります。また、現在、令和7年度以降の中長期計画の策定作業も進めているところです。次期計画では、本市水道を取り巻く状況がますます厳しくなることを踏まえ、DXや新技術の推進も視野に入れ、これまで以上に効果的・効率的な事業実施が求められます。

一方、下水道では、昭和40年代から50年代にかけて集中的に施設の整備を進めたため、老朽化した管路や処理施設の改築が急務となっています。

加えて、集中豪雨の増加や大規模な地震の発生、また、財政運営の面では、将来の人口減少に伴う下水道使用料収入の減少や昨今の物価高騰などにより、財政状況の悪化が懸念されるなど、下水道事業は厳しい状況に直面しています。

このような状況の中、令和3年度から12年度までの下水道事業の方向性を示す「札幌市下水道ビジョン2030」を令和2年8月に策定し、令和3年7月には、ビジョン前半の5年間の実行計画として、「札幌市下水道事業中期経営プラン2025」を策定しました。

これらの計画に基づき、老朽化対策については、今後も下水道の機能をしっかりと確保していくため、施設の維持管理を適切に実施しながら、計画的な改築を進めています。さらに、雨水対策や管路の耐震化なども進め、災害に強い下水道を構築していきます。また、財政運営においては、より一層の業務効率化によるコスト縮減を図るほか、国庫交付金の積極的な活用など

～変化に対応する上下水道の取組～

により、下水道事業の健全な経営に努めていくことと
しています。

(3) 時代の変化に対応する上下水道

令和6年度に、水道整備・管理所管が、厚生労働省から国土交通省・環境省へ移管される予定です。これまで厚生労働省のもと培ってきた水道行政の強みを継承しつつ、今後は、国土交通省が所管するインフラの一員に加わることで、一体的な施策の推進や事故・災害時の対応力のさらなる強化等に期待しているところ
です。

一方、今年の4月には、札幌で開催された「G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合」に合わせ、世界のGX（グリーントランスフォーメーション）に貢献することとした「北海道・札幌宣言」を発表しました。今後、札幌市は、ゼロカーボン都市の実現に向けて、さらに脱炭素に係る取組を進める必要があると考えて
います。



G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合に合わせ
発表された「北海道・札幌宣言」

特に下水道事業は、水処理及び汚泥処理の際に多くのエネルギーが必要となることから、令和3年度実績で、市全体のエネルギー使用量の約17%を下水道事業が占め、それに伴い多くの温室効果ガスを排出して
います。

また、その一方で、下水道が扱っている下水や汚泥等は、上手に活用できれば貴重な資源として扱うこと
もできます。

このような特色から、下水道事業は、地球温暖化対策に対し、積極的に取り組むことが求められており、今後より一層、省エネルギー、創エネルギーの両面から、札幌市全体の脱炭素社会の形成に大きく寄与して
いきたいと考えています。

今後も、変化に柔軟に対応しつつ、利用者にいつまでも満足いただける上下水道を目指し、必要な取組を進めてまい
ります。

3. 下水道展'23札幌

さて、上下水道の今年の大きな話題は、8月1日

(火)～4日(金)に、東京以北では初めてとなる、「下水道展'23札幌」の開催です。札幌ドームを会場に開催されるこの催しでは、最新技術を学べるとともに、独自の技術や取組を全国に紹介することでビジネスチャンスが広がる有意義なものと考えて
います。

また、札幌市民への理解促進だけでなく、道外から多くの来場者が見込め、観光面でも大きな意義があると捉えて
います。

パブリックゾーンでは、道内20以上の都市や団体に協力をいただき「オール北海道・下水道アカデミア」という特別展示を実施します。この展示では、ARを活用した大雨浸水時の疑似歩行体験や下水道管内を小型カメラで調査するゲームのほか、夏休みの宿題の定番である自由研究をサポートするコーナーなどを企画しているところ
です。また、札幌水道のおいしさを実感していただくため、「きき水」体験ブースも設置する
予定です。

道外からの来場者に対しては、キッチンカーによる道内ご当地グルメの提供や特産品の販売などを通じて、各都市の魅力をアピールすることとして
います。

そのほか、下水道展に向けた話題づくりとして、北海道を応援するために誕生した初音ミクの冬季版である「雪ミク」のデザインマンホール蓋を制作
しました。

デザインは全5種類で、下水道展にあわせて、大通公園や大倉山ジャンプ競技場、すすきの等、市内の観光地5か所に設置したところ
です。

下水道展が開催される8月上旬は、北海道の最高の観光シーズンです。ぜひ多くの方に下水道展にご来場いただき、札幌、北海道を満喫して
いただきたいと考えて
おります。



雪ミクのデザインマンホール蓋

4. おわりに

昨年、市制施行100周年を迎えた札幌市は、3年後の令和8年には下水道事業が開始100周年、その翌年の令和9年には水道事業が開始90周年となります。

札幌市では、地球環境や身近な環境を保全し次世代に引き継いでいくための脱炭素社会の実現、少子高齢化、生産年齢・総人口の減少など人口構造の変化、都市基盤のリニューアルなど、向き合っていかなければならない課題が山積しています。

これまでの100年の歩みに思いをいたし、これまで築き上げてきた札幌の上下水道を未来へとつないでいくため、時代の変化に対応し着実に上下水道事業を進めてまいりますので、引続き皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。